



アルコール依存症治療に携わる さまざまな職種とその役割

1

アルコール依存症治療におけるソーシャルワーカーの役割と貢献

The role and contribution of social workers in the treatment of alcoholism



武蔵野大学人間科学部社会福祉学科
教授

稗田 里香
Rika Hieda

Summary

ソーシャルワーカー (social worker : SWer) は、単に社会資源やサービスなどの情報を提供し、支援を終了することを最終目標にはしていない。SWer自身が社会資源であると認識し、苦しむ人自らがSWerを活用し、対等に信頼関係を築きながら課題を解決していくプロセスを提供することを大切にしている。この経験を通し、苦しむ人が絶望と孤立から解放され、自分の潜在能力に気づき、生きる意味を見出し、生活の再構築に主体的に取り組むチャンスをつかむことができるよう支援することを目指している。SWerの専門性が、アルコール関連問題に苦しむ人々にも発揮されれば、アルコール依存症治療にも少なからず貢献できるのではないかと。わが国においても、すべてのSWerは依存の問題を発見する最前線に存在することを目指し、人材育成や啓発活動など積極的な取り組みが広がりつつあるところである。



Key Words

ソーシャルワーカー、ソーシャルワーク、トリートメントギャップ、職能団体、人材育成

ソーシャルワーカーとソーシャルワークとは

ソーシャルワーカー (social worker : SWer) は、ソーシャルワーク (social work : SW) という社会科学に基づく方法で、生活課題の解決を支援する世界的に認知された社会福祉学を基盤とする専門職である。日本では、国家資格の名称がソーシャルワーカーでなく、社会福祉士や精神保健福祉士となっていることから、医師、看護師などの他職種と比べ、認識されにくい側面も持っている*1。

SWerは、生活課題を人と環境 (person-in-environment) のインターフェース (接触面) の不具合によって生じるととらえる。アルコール関連問題に苦し

む人の生活課題は、図1に示すように、ミクロ・メゾ・マクロに分け、苦しむ人とその人を取り巻く社会関係との双方をアセスメントする「二重の視点」でとらえている。すると、すべての環境に不具合が生じやすい構造であることがわかる。

換言すれば、アルコール関連問題の苦しみは、その多くが生活苦や合併症として顕在化することから、専門治療や専門相談など直接的な場だけでなく、多様な社会福祉現場に所属するSWerが対峙する可能性が高く、その支援方法も、ケースワーク、グループワーク、

*1: わが国では、国家資格をもたなくてもソーシャルワーカーと名乗ることができる。